

オーディオルームの防音対策事例

《背景》

室内装飾の事務所兼オーディオルームを作成したが、オーディオのボリュームを上げると低音の音割れが気になり、またバックコーラスのボーカルが期待したほどクリアでない状態であり音量を上げたときに音像がぼやけていた。デザイン的にも優れた仕様で大規模でない工事で音響を改善したいとの話あり。防音くん室内吸音用で対処した事例。



目的

- ① オーディオルームへの吸音性付加による音響環境（残響時間）の改善。

対策概要

- ① お客様からオーディオルーム（事務室兼用）が過度の反響によりスピーカ音が聞き取りづらいとの問題提起あり。
- ② 出張し、お客様の要望を満たす構造（吸音ブラインド）を提案。
- ③ 検討結果を報告し、お客様の了解を得た後、内装工事を受注（当社関連会社）。
- ④ 防音材構造物を出荷、現地で取り付けの内装工事実施。
- ⑤ 再度、残響時間測定し残響時間が最適値になっていることを確認。

効果

対策前後残響時間を右図に示す。

設置後：残響時間の大幅な改善。1000～4000 ヘルツの反響音を吸音し、整えている。オーディオルームとしての推奨値に近づいた。バランスの良い響きとなった。

お客様のご感想：音量を上げたときに音像がぼやけていたが、ブラインド施工後は大音量にも耐えられる（音質の）部屋となった。

高音域の鳴りが減って聞きやすくなった。中音域はボーカルの音像がはっきりした。低音域は大音量のときにこもらなくなった。

